

# あだたら

第433号  
発行所 町会  
郡山市久田山の会  
あだたら編集

編集部長 渡辺 正  
〒970-0243 福島県郡山市久田山1-1-515  
0243-221-4245  
FAX可 渡辺 正

## 新年あけましておめでとうございます

会員の皆様におかれましては、輝かしい年頭にあたり、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は日本山岳遺産事業にご協力頂きまして誠にありがとうございました。

会員皆様のお力添えいだいたおかげで、無事に事業を完了する事ができました。

お蔭様で当会活動などについても僅かながらでもありますが、温かいお言葉などを掛けて頂く機会が増えました。

本年も登山道整備だけでなく様々な場所での会の発展が出来るよう努力致しますので積極的な会行事にご参加頂きますよう何卒、宜しくお願い致します。

二〇二五 (令和七) 年元日

あだたら山の会会長 □□□□

十二月七日 (土)

## 十二月山行・新入会員歓迎登山

塩沢黒森山、青木荘にて、例会・忘年会  
報告 □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ (共に新入会員)

報告者・□□□□

十二月七日、新人歓迎の黒森山登山に新入会員として参加しました。今年度は新入会員が多く、総勢十六名での登山でした。快晴とまではいきませんが心配さ

れた積雪はなく、ふわふわに積もった落ち葉を踏みしめながら登りました。黒森山は、道はあるけど地形図では表記がなく地図読みの勉強にはびったりの山という事で、コンパスで確認しながら進んでいきまし

た。途中、細い丸太を渡した橋に怖気づいてしまいましたが、まわりの皆さまに支えられながら無事通過することができました。山頂手前で急登コースと迂回コースに分かれ、わたしは迂回コースで山頂を目指し、



黒森山登山口

山頂で急登コースのメンバーと合流しました。山頂ではうっすらと雪化粧した近くの山々が見え、初冬の登山ならではの景色が楽しめます。また、おしるこ・ホットワイン・干し柿とブルーチーズをいただき、贅沢なおやつ時間でした。ホットワイン、干し柿をおかわりしておなかも満たされ、昼食はとらずに下山開始しました。丸太橋にまたドキドキしながら、間近で見るエビスサーキットのドリフトにワクワクしながら無事下山しました。山ノ入



楽しいひとときでした。有意義な時間を諸先輩がたと共有できたことに感謝いたします。

報告者・□□□□

十二月七日(土)に黒森山にて新入会員歓迎登山と登山教室が実施されました。今年度は十三名が新たに加入、過去最高だそうです。今回の登山は新会員七名、ベテラン組が九名の、総勢十六名が参加しました。

十六名が一行に登山道を登る後姿は壮観で、素人の私が見ても『脚の運び方が違う！さすが鍛えている！』と感嘆の溜息。

入会して三ヶ月の私は、『YAMAPの地図と下山予定時刻しか情報の無い初めての黒森山。自分は皆と同じ歩調で登れるのか？、降水確率四十%、雪になるかも知れない』と、とても不安でした。

一方、ポジティブ短絡的思考がフル回転し『黒森山登山道はあだたら山の会の人が切開いた道。一緒に登る方々は遭難救助に携わっている超ベテランばかり、大丈夫！』と毎日心がエレベーター操作しておりました。

登山道入口に到着。登山日の前に会員の皆さんで、駐車場の木の伐採や登山道の整備をして頂いたお陰により、車をキズ付ける事無く、ふかふかの落ち葉を踏み締めて快適に登る事が出来ました。屋前に山頂到着。福島県の街は樹木で見ることが出来ませんでした。土湯の道の駅は見えて『いつか反対側から黒森山を見て見よう』と眺めていると、私にとって大きなサプライズ！！がありました。山の会ではこの日の為に温かいお汁粉と甘酒を用意して下さい、更にホットワインと干し柿にブルーチーズのお洒落な一品もあり、『これぞ多くの登山者が思い描く山の休憩タイム！』と心でピースサイン。どれも美味しかったです。身も心も温まり、賑やかに下山する事が出来ました。歓迎登山の企画・準備をして下さった方々、安全で楽しい登山に導いて下さった方々に感謝申し上げます。心温まるお心使いありがとうございました。そしてこれから、登山の楽しみ方や登山道の整備、救護法等、学びたい事は沢山あります。山を登る様に一歩一歩前に進んで行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

十二月山行黒森山写真集



山頂への最後の急傾斜の登り



唯一の橋、手入れしてあった



黒森山登山口



山頂で乾杯



乾杯の準備



山頂に到着



行程です



絵図の黒森山、赤は境壇



土湯街道大関あたりからの黒森山



抽選会のジャンケン



抽選会の賞品



当日集まったお酒

十二月七日・忘年会



□□さんがご持参下さったネギ、みんなで分けて頂いて持ち帰った。



会員でもあり、元会長の青木荘ご主人の♫で散会。



当会最古参の□□さんも歌を披露

十一月二十五日 (月)

# 個人山行・夏井川の紅葉と月山

報告 □□□□



月山、ニツ箭山の途中

紅葉の見納めは毎年夏井川と決めている。今年も十一月二十五日行く。天気も良く川前から小川まで紅葉は毎年見ても飽きない。また、紅葉した葉かソヨ風で散るのを見る事もできた。

三九九国道根本部路より桐ヶ岡林道に入り大山祇神社前に車を止め入山する。十分位歩くと月山コースの道標より入る登山道も紅葉

はしている様だが太陽の光の関係で、良い所も悪い所もある。このコースは岩場や階段も少なく、急ではあるが安心して歩ける。月山山頂十二時予定時間に着き、一時間ほど眺望を楽しみ、昼食休憩。午後一時下山する。登り約一時間半、下り一時間。私達には良いコースである。帰りは川前部路より県道二八七号線の紅葉を見、川内村から二八八号国道より四五九国道さ

# 十二月二十一日 (土) 個人山行・郡山の大滝渓谷

報告 □□□□

今日は妻のデーサービスの日、朝九時に送り出してから準備して大滝渓谷入口へ向かう。ここを知ったのは郡山で家山子祭りを見ての帰り、御霊櫃峠までと思

付かずには、大滝渓谷の看板を見付け、入って見た。途中から砂利道となるゲートがあり、これより先は三〇〇は徒歩でとなる。大滝渓谷がどんな所なのか見てみたいと思っていた事



途中のゲート



大滝右沢の車道終わり

が今日実現したのである。入口十一時出発、手入れされた道、途中古いトイレなどもある。一ヶ所登ると大きな沢が合わさり、道は右の沢の方へ。左の沢の山道に入る。途中の岩場にはロープなどもあり、沢をつめる山道が不明路となる。前が岩場となり小さな滝があるがその上は見えない。足場も無いのでここで諦め下山する事にした。途中、二十分の休憩を少し下ると若者三人が登って来た。「滝はまだですか」と言われたが「足場が無いので諦めて来た、ありがとう」と別れる。車道まで出ると、マウンテンバイクで車道を下ってきた一人の男性に聞くと、少し先までとの事で行く事にした。終点に大滝渓谷の看板があり、左の沢に行ったのは間違いない事を知った。この沢の奥に十ヶ所の滝があり、大滝渓谷と言う事になったとの事。少し入って見たが、沢歩きのようなので諦めた。午後二時下山帰路に付く。

# 水とふれあう名所10選

## 大滝渓谷 (おおたきけいこ)

この渓谷は、達瀬川の最上流部に位置し、渓谷の上流に高さ十メートルを超える「大滝」と呼ばれる滝があります。多数の水生生物が生息するなど、手付かずの自然に囲まれており、地域の入込に大切に守られ、親しまれている美しい渓谷です。

ここでは、人々の憩いの場として森林浴、水遊び、秋の紅葉など、自然を楽しむ人々ににぎわいます。

車道終わりの案内看板

# 黒森山名物の話

報告 □□□□

黒森山は二本松市塩沢、東北サファリパークの裏山といったところにある。土湯街道大開あたりから見る。右に「尖り山」と左に「平らな山」だ(二頁の写真)。国土地理院の地図では西側の平らな山に「黒森山」の名があり、三角点が見られる。標高は七六〇、尖り山には名は無く標高だけが七三三だ。実はこの地域には江戸時代の文化四(二八〇七)年作成の「此所信夫御領三拾六ヶ村渋川組村々當六町



大滝渓谷・不明路となり引き返した地点

南成田村油井村大平村渡辺富弥口各入會場図」という長い名前の絵図があり、県歴史資料館に所蔵されている。その絵図では、尖り山が「黒森山」、平らな山は名無しだ。今は江戸時代とは逆の名付けが為されている、このような事は各地で見られる。先の絵図は天領「信夫御領」との境や入会地などを示しているが、領地の境界には「境壇(さけーだん)」の記載があり、それは現在でも見る事ができる。今回のルートだと、

橋を渡った尾根筋に「境壇」が今もあり、「尖り山」の山頂から西に下がる道沿いには「石積み」の「境壇」が見られる。「境壇」更に奥まで伸び、土湯街道横断箇所にも見られる。実は先の絵図、安達太良連峰の稜線まで描かれてあり、笹平相当の場所にも「境壇」が描かれている。確認したいものだ。

尖り山は地元での名「二階山(にげーやま)」そのままでの形で、一旦登り上げた平地に更に「尖り」が突き出ている。登り上げたところには「船」の形した石があり「船先」の形がよくわかる。昔の登山道沿いだ。良い目印だったろう。山頂の岩には、「境壇」の印もあったはずだか。印が一杯あるので、よくわからない。

# 編集後記

四三三号

◆今回の年末年始、ちっとも暇が取れなかった。会報作りが二つ重なって、頭の整理が付かない、年末電話があり、三つ目も来そうな雰囲気がある。当会の会報はもうすぐ片が付く。答だ。最近全く休んで居ない、今日は四日、少し休めるかも知れない。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。